

足元から、 まちをきれいに。

ボランティア 松本伊美 Matsumoto Tadayoshi



日曜日の朝、まだまちが眠る時間に、松本さんは一人トングとごみ袋を手に歩き出します。

「誰かがやらなきゃ、きっとそのままになる」。

神分地区を中心に、河川敷や道端に落ちたごみを拾い続けてきました。

祭りやイベントのあとに残る空き缶やペットボトルを見るたびに、胸がざわついたと言います。

45リットル袋が3つ4つと、黙々とごみを集め、自宅で分別する日々。

それでも「きれいになると、気持ちがいいんです」と言います。

「ありがとね」と声をかけてくれる人の笑顔が、続けられる理由。

無理に広げず、まずは自分の足元から。松本さんの背中が、まちへのやさしさと誇りを物語っています。

拾うたびに、風景も心も少しずつ澄んでいく。今日も変わらず、静かな朝がはじまります。

■ 松本さんのおすそわけは、
ごみ拾いのアドバイスをして、みんなでまちを
きれいにすることです。

連絡先は、メール：matsumo.jp@gmail.com